

## 地域コミュニティ会議実施結果(概要)

### 1. 会議の目的

令和7年度からの5か年を計画期間とする「第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定のため、地域の状況や福祉活動を振り返り、地域の強みや課題を整理し、今後の取り組むべき内容を明らかにすることを目的とする。

### 2. 会議の概要

#### ・実施方法

開催単位：17地区社協

会議進行：市社会福祉協議会及び(株)ジャパンインターナショナル総合研究所(委託業者)

#### ■各地区の開催概要

地区社協名	日にち	会 場	参加者人数
那加一	9月12日	那加西福祉センター	21
那加二東部	7月14日	那加福祉センター	25
雄飛	9月15日	雄飛公民館	27
那加三	7月25日	那加南福祉センター	28
尾崎	9月30日	尾崎ふれあいセンター	24
稲羽西	7月7日	稲羽コミュニティセンター	30
稲羽東	9月9日	稲東福祉センター	40
川島	9月30日	川島ライフデザインセンター	17
鶉沼第一	7月22日	鶉沼福祉センター	16
鶉沼第二	8月6日	コミュニティ炉畑	44
陵南	10月8日	陵南福祉センター	20
鶉沼第三	8月20日	鶉沼東福祉センター	36
各務	10月21日	各務福祉センター	30
緑苑	10月28日	緑苑中央集会場(ふらっと)	24
八木山	9月24日	つつじが丘ふれあいセンター	23
蘇原北部	9月9日	蘇原コミュニティセンター	46
蘇原南部	7月17日	蘇原福祉センター	66

・地域コミュニティ会議当日の流れ

時間	内容
10分程度	<b>趣旨・概要の説明</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4期地域福祉活動計画について説明</li> <li>・ワークショップの内容について説明</li> </ul>
60分程度	<b>ワークショップの実施</b> <p>STEP1 地域の良いところ、課題について考える</p> <p>STEP2 課題を解決するために個人や地域で取り組むことを考える</p>
20分程度	<b>意見発表・総括</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループ代表の方が発表（1グループ3分程度）</li> <li>・全体まとめ</li> </ul>

・ワークショップの様子（抜粋）



稲羽西



蘇原南部



八木山

・成果物



那加三



鵜沼第三

### 3. 会議の結果

#### 那加一地区社協

良いところ	土着が多くあるので各家庭の家族構成等の詳細が分かっており、普段から会話が多く、コミュニケーションが図られている。見守り隊などの活動も活発である。
地域の課題	転入者も増加し、町が活発になる一方でコミュニケーションが取りにくくなってきた。また、自治会組織内での交流機会も少ない。地域行事の参加率の減少と意識の希薄化も課題である。
解決の方法	新しく町内に転居された方への声かけやあいさつを積極的にする。また、自治会内で定期的に世代間のコミュニケーションを図る機会を作る。各種団体間交流を図るための機会を増やしたり、回覧板を有効活用する。

#### 那加二東部地区社協

良いところ	散歩をする人が多く、新しいコミュニケーションが生まれやすい。また、自治会組織が機能している他、見守り隊や後援を清掃する方などボランティアをする方が多い。
地域の課題	新型コロナウイルスにより交流が少なくなり、普段からの町内のつきあいも減った。地域でも顔の知らない人がおり、困りごとに気づけないなどコミュニケーション不足である。
解決の方法	複数の自治会が合同でイベントを行うなどにより、イベントの再開と役員の負担軽減を可能にできる。若い世代を地域に呼ぶこむために活動日を土日にするなど、若い世代が参加したくなることを企画する。

#### 雄飛地区社協

良いところ	地域の行事が色々あり交流ができています。人生の先輩が町内のことをいろいろ教えていただける。できることは協力したいと気持ちを持った人が多い。子どもたちがみな挨拶してくれる。子育てがしやすく住みよい町である。
地域の課題	町内の人数は増えたが付き合いは減った。高齢化等により民生委員など担い手がない。行事は多いが、参加者の顔ぶれは同じであることが多い。側溝掃除など力仕事が大変になってきた。
解決の方法	コミュニケーションを図ることを目的としたイベント（ラジオ体操・盆踊り）を企画する。少なくなった隣近所の付き合い方を考え直す。目安箱のようなものを用意して住民の希望をきいてみる。

## 那加三地区社協

良いところ	幼児から高齢者までの数のバランスが良く、またボランティアに参加してくれる人が多い。地域の行事が盛んであり地域の事を考えてくれる人が多く近隣グループが充実している。
地域の課題	独居高齢者の増加に伴い行事の参加が減少している。空き家が多く草が野放し等、街が綺麗にならない。転入してきた方の自治会加入率が悪く交流が得られない。
解決の方法	転入者が参加しやすいように子どもと一緒にイベントを開催する。近隣で繋がりが持てるようにコミュニケーションを図る機会を作る。高齢者世帯や独居、また空き家マップを作り防犯意識を高める。

## 尾崎地区社協

良いところ	自然豊かで散歩や山登りをする人が多い。いろいろな経歴をもつ豊かな人材がいる。尾崎社協、助っ人隊、青少年育成などボランティア活動が盛んである。銀行・郵便局・生協が団地内にあり、大学も近くにある。
地域の課題	坂が多く、車以外の移動手段が少なく、買い物や通院に困る。子どもが減り活気がない、高齢化と独居の増加で、自治会などの地域活動の担い手が不足している。
解決の方法	買い物ツアーや乗合いタクシーを実施する。散歩をしながら地域を見守る。同じ趣味の人が集まるサークル活動などで若い人も高齢者も集まる。伝承遊びなどで高齢者と子どもがふれあう事業を増やす。デジタルに対する知識をアップする。

## 稲羽西地区社協

良いところ	三世代同居家族も多く、思いやりの心が子どものころから身につけている。また、顔の見えるご近所づきあいができており、声掛けが自然と出てくる。地域行事や見守り隊などのボランティア活動が積極的である。
地域の課題	徒歩で行ける商店が少なく、高齢者の買い物が困難になっている。町内の行事が少なくなり、また、公民館の利用も少なく、コミュニティが希薄になってきた。
解決の方法	自分の買い物時、近所のお年寄りに必要なものはないかなど、声かけをし、一緒に買い物に誘ってみる。日ごろの声掛けやあいさつを行い、近所の人と交流をする。学校の空き教室や公民館を利用して、地域の交流場所をつくる。

## 稲羽東地区社協

良いところ	顔を見合わせると挨拶を交わし、ご近所づきあいも積極的に行われている。子どもの登下校時に多くの見守り隊員が見守ってくれるため安心。用水の草刈りなどの際は団結し大勢の協力が得られる。
地域の課題	農地や自宅など雑草を刈ることが難しくなり、空き家も含め荒れているところがある。自治会未加入者とは接点がない。細い道を通勤時の裏道に活用している車の速度が高く危険。
解決の方法	ボランティア隊を組織し、草刈りなど住民の困りごとに対処していく。自治会に入っていない人ともコミュニケーションをとる。車が速度を出す道は見守りや、手作りの啓発看板を設置する。

## 川島地区社協

良いところ	若い世代の転入も多く、子どもが増えており活気がある。近所の高齢者があつまり井戸端会議をするなど、顔が見えるご近所付き合いができています。秋まつりといった行事活動では三世代の交流ができています。
地域の課題	地域に元々住んでいた人と転入してきた人の交流が得られない。支えあい活動といったボランティア活動が活発ではない。高齢者が気軽に集まれる場所や、世代間交流をする機会が少ない。
解決の方法	自らボランティアを始めて周りの人を誘ってみる、チョイ散歩であいさつをするなど、できるところから始めてみるといった前向きな意見が見られた。公民館を開放して気軽に集まれる場所をつくり地域交流をする。

## 鵜沼第一地区社協

良いところ	アパート・住宅が増え、若い住民が多くなり、子どもたちが良く元気にあいさつをしてくれるため、まちに活気がでてきた。また、ボランティアハウスが定期的な開催をしており集しやすい。
地域の課題	大人と子どもとの会話する機会が少なく、親から子への伝統などの継承がない。子どもたちの外で遊ぶ姿が見られず、世代を超えた交流がない。
解決の方法	意図的に親子がふれあったり話し合ったりする場を自治会が中心となり仕組む。社協がふれあい事業を周知したり、三世代で集う場を充実させる。夏まつり、市民運動会等のコロナ前の行事を行っていく。

## 鵜沼第二地区社協

良いところ	公共交通機関や店が多く、暮らしやすいこともあってか転入者が増え子どもも多い。また、自治会活動や住民お互い様活動も活発で地域に居場所のある方が多く、住民同士のつながりもある。
地域の課題	自治会に入っていない人や、外国籍の方、新興住宅の方と交流が無くゴミ出しのルールが共有できなかつたり、地域と接点が少ない方もいる。近所付き合いが希薄となり、高齢者や独居の方が心配でも関わりづらくなっている。
解決の方法	外国籍の方、子ども、若者を初めとし、まずは近所で誰かに会ったら挨拶をし、ご近所づきあいを始めるという意見が多い。また、自治会や、班、区といった単位で集いの機会（イベント等）を設ける。

## 陵南地区社協

良いところ	子どもたちを含め挨拶ができています。また近所の交流があり、困りごとがあった際、隣近所での助けあいや近隣ケアグループが小まめに気にかけており、安心して暮らすためのネットワークができています。
地域の課題	コロナ禍がきっかけで地域の行事がなくなり、子どもの親や若い世代との交流がない。また、高齢者宅の草木の手入れやごみ出しが難しい方がいる。空き家が増えたことが防犯上心配である。
解決の方法	普段から声かけを行い、まずは顔なじみの関係となる。行事に参加してもらうために行事を見直し、魅力のあるものにする。周知する先を検討して参加を促す。また、困りごとについて個で対処せず、自治会、民生委員、近隣ケアなどで共有する。

## 鵜沼第三地区社協

良いところ	年齢問わず挨拶をするため、ご近所が顔見知りで、声を掛けやすい関係性が築けている。また、住民が地域のことに積極的に関わっており、支えあい活動や地域の行事、集いの場のサポートなど活躍する姿が見られる。
地域の課題	ごみ出しや移動など生活に不安を感じ、年を重ねてから交通弱者になることが予想されるなど、生活に対して不安を感じている。若い世代が地域行事や支えあいの活動への参加が少ない。
解決の方法	困りごとを地域で共有し、年齢に関係なくできる人が誘ったり、声掛けを行うなど、自分たちの手でご近所をより良く変えていく。また、地域の活動を広く周知することで、活動参加へのハードルを下げて、若い世代の参加を促していく。

## 各務地区社協

良いところ	村国座子供歌舞伎に子どもたちが参加し、伝統行事の継承ができています。合わせて、歴史的、文化的な資産に恵まれている。山あり川有自然豊かな地域。団地では住民同士のつながりがいい。
地域の課題	若い人が減ってきており、祭りごとや文化の伝承をしていくことが難しくなってくる。高齢化と独居でゴミを出したり、草を刈ることが難しくなっている。また、役員のなり手がいない。
解決の方法	福祉サービスやイベント情報、自治会活動を誰でも知れるように多数の手段で周知していく。ちょっとした困りごとは近所の住民同士で助け合っていく。役員等誰でもしやすいよう自治会の仕事をマニュアルに記す。

## 緑苑地区社協

良いところ	助け合いの精神があり、ご近所でコミュニケーションがとれている。各団体の活動が活発で、ボランティア活動に前向きの方が多い。
地域の課題	少子高齢化でボランティアなどの担い手が減少している。空き家が増加し手入れされていない所が多い。高齢化で認知症の方も増え、ごみ出しが困難になっている方もいる。
解決の方法	デジタルツールを活用し、地域の現状を広く住民に知ってもらうように発信する。地域委員会を設置して空き家数を調査する。認知症の方もあたたかく見守る心を育て、皆がずっと住める地域づくりをしていく。

## 八木山地区社協

良いところ	多様な趣味や能力を持った人が多く、サークル活動や交流の機会が豊富にある。また、生活の困りごとに対応する組織や相談所があり、様々な支援を受けることができる。
地域の課題	ささえあい活動のニーズが多様化する中、困っている方の気持ちに寄り添う必要が増えてきた。活動を継続するにあたり、寄り添い支援ができる人、若い世代の参加が少ないなどが課題としてあがる。
解決の方法	家庭菜園の指導やプチリフォームなど若い世代と共に作業をする。隙間時間にできるボランティアを創出することや、有償活動であることをPRする。民生委員や近隣ケアとの情報交換を活発に行い、地域を「見える化」する必要がある。

## 蘇原北部地区社協

良いところ	昔からの地域が多い為、人とのつながりが割と密であり親切な方が多い。それに付随して困っている人を助け合える環境も整っている。自治会加入率も高くまとまりがある。
地域の課題	高齢化が進み自治会活動に制限がかかるケースが目立ち始めた。若者世帯と高齢化世帯のジェネレーションギャップにより、世代間交流が進みにくくなっている。高齢者独居世帯や空き家も増えてきている。
解決の方法	若者世代が自治会を引っ張れる様な仕組みづくりを進める。そのため自治会への参加さや負担を軽減できるように改革していく。お隣りへの挨拶など気軽に地域を見守る活動を推進していく。

## 蘇原南部地区社協

良いところ	普段から助け合えるご近所関係があり、簡単な生活支援活動が行われている地域もある。自治会の行事も多く、地域の交流が盛んである。
地域の課題	高齢化が進み、高齢世帯、一人暮らしの方も増えていることもあり実態がわからない。高齢者の移動や買い物に困難が生じている。町内が違くと名前や顔も分からないことがある。
解決の方法	声かけやあいさつをおこない、行事ごとにお誘いをする。自治会長、班長、民生委員の連絡を取りやすくし、地域のコミュニティを確立していく。